

平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	総務部総務課	直通電話	72-3149	事業コード	701030108	課内	2	作成日	平成15年8月14日
		担当者	伊藤 和哉	担当課長	川端 章義	担当部長			白井 俊

1 事業のアウトライン

1) 事業名	表彰事業	開始年度	S32	終了年度	未定
		最近の事業内容見直し年度			
2) 総合開発計画での事業体系	施策コード 7010101 その他 / その他 / その他	大項目 / 小項目 / 細項目			
3) 個別計画での位置付け					

2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	市の政治、経済、文化等の各分野において、貢献したもの、および市政の推進に功勞のあったものを褒めるため。
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	功績顕著なもの、または、模範として推奨するに値する功績のあった人を褒めるため。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	広報及び各団体に推薦の依頼をし、審査委員会を経て被表彰者を決定し、11月に表彰式を行い、各受賞者を広報で市民にお知らせする。 なお、表彰の種類は、1. 功勞表彰(自治功勞章 産業経済功勞章 教育文化功勞章 スポーツ功勞章 社会福祉功勞章)、2. 善行表彰、3. 石狩市民芸術文化賞、4. 石狩市民スポーツ賞。
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	なし
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	北海道表彰のほか他市町村においても同様の表彰制度がある。
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	審査委員会において決定している。
7) 評価中間公表への市民意見	なし

3 事業に投入した行政資源

項目	H12	H13	H14	H15 予算	H14 事業費の主な内訳	金額(千円)	
1) 直接事業費(千円)	662	644	596	783	委員会開催経費(委員報酬、費用弁償)	32	
2) その他の間接経費(千円)					表彰式開催経費(記念品、しおりなど)	564	
3) 従事正職員の人件費(千円)	83	912	906				
総事業費(1~3の合計;千円)	745	1,556	1,502		H14 主な特定財源の内訳		金額(千円)
総事業費中の一般財源(千円)	83	1,556	1,502				
市民一人当たり一般財源使用額(円)	2	28	27				
事務に従事した正職員のべ人数	0.01人	0.11人	0.11人				

4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	
広報活動(回)	目標値	2	2	2	2	目標値は、年度当初の事業計画により設定
	実績値	2	2	2		
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%		
被表彰者の人数(人)	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定	目標値は、その年の推薦者の数や委員会の審議によって受賞数が変わるので設定出来ない。
	実績値	16	12	12		
	達成率					
	目標値					
	実績値					
	達成率					

5 事業の成果

事業名：表彰事業

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
被表彰者の表彰式出席人数(人)	目標値	16	12	12	未設定	目標値は、必ず被表彰者が出席することとして設定。	表彰式時の受付簿
	実績値	16	12	12	目標レベル		
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%			
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					

6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	条例の定めのとおり実施している。				
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要とされているか	効果があり必要とされている。				
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	市事業であるので関与は当然である。				
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	適当である。				

7 平成14年度事業の総合評価

[評点の意味] A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	[課長評価]	A	[最終評価]	B (前年度)
	市の発展のため貢献又は尽力し、市政の推進に寄与した「市民」の功労を賞えるためにも必要である。		現行条例・規則の見直しが必要である。	

8 今後の方向性・課題

担当課長評価	従来どおり実施
最終評価	現状の条例・規則では、幅広く市民の功績・功労者等を表彰対象とする状況に欠けることから、条例等の改正を行う必要がある。

9 平成16年度の方向性

* ; 担当課長 ; 最終評価	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持	*	
	縮小方向		
	統合 休・廃止		
上についての説明	条例等の見直し		